

自殺予防教育プログラム実施報告書

学校名	北海道札幌白陵高等学校
-----	-------------

(1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年8月31日(木)	研修参加人数	40人
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌学院大学人文学部人間科学科 教授 柝真賀 透 氏を講師に心理検査(テストバッテリーM2+)の診断資料の活用について研修を実施した。さらに、1・2年次別に研修を実施した。2年次(10月30日)、1年次(11月24日) ・生徒の学習指導や生活指導などに必要な、生徒の知的能力及び性格・行動面などの特性について客観的に把握する。 		
研修に参加した教職員の声	<ul style="list-style-type: none"> ・個々についての問題点について分析し、生徒の実態およびその支援方法について共有していくことが重要であると実感した。 ・専門家のアドバイスを受けることができ参考になった。 		
研修等で使用した資料名	<ul style="list-style-type: none"> ・テストバッテリーM2+診断資料、講師持参資料 		

(2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

	実施状況(主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等)
A 援助希求的態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・4月、8月、1月の年3回、教育相談週間を設定し、全校生徒を対象に個別に面談を実施した。 ○ 生徒の変容を促す工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・担任や副担任を中心に全教員が生徒の相談に対応した。 ・心理検査結果を参考に生徒理解を深化することができた。 ○ 生徒の変容 <ul style="list-style-type: none"> ・面談を通して、教員との信頼関係が深まり自己肯定感が深まった。
B 早期の問題認識(心の健康)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いた講話による「命」の大切さの再認識及び、自己理解及び他者理解の深化 ○ 生徒の変容を促す工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・人と人の関わりはどうあるべきか、援助希求の重要性、男女交際、情報選択の方法、いのちの誕生、LGBTQ、デートDVなど、助産師の経験や体験に基づいた講話を通して自他の生命の大切さについて理解を深める。 ○ 生徒の変容 <ul style="list-style-type: none"> ・自分が思うものと相手が思うものは大幅に違うことがほとんどであることを学び、相手のことも自分のことも大切にすることを認識するようになった。 ○ 生徒の感想 <ul style="list-style-type: none"> ・自分も含めて小さな頃から大切な一人の人間として接することの大切さを実感した。 ・命の大切さについてこれまであまり考えたことがなかった。男女交際について考えるきっかけになった。



【講話の様子】

C
ストレス
対処能力の
育成

- 実践の概要
 - ・「保健」の授業の現代社会の健康、生涯を通じる健康等と関連付けてストレスの対処法について理解を深めた。

「命を考える教育」について、各教科で命の大切さや講話内容に関連のある内容を教科の目標の範囲内で取り上げる。

国語：新聞記事等を使用した学習
地 公：DVと女性の人権、性非行と法、携帯に関する法律、世界の食問題 等
数 学：犬の年齢と等差数列の関係 等
理 科：栄養の問題、DV・いじめが脳に与える影響、受精卵 等
保 体：性の問題、栄養の問題 等
芸 術：芸術表現と男女関係 等
英 語：これらの問題に関する英文記事等での学習 等
家 庭：栄養に関する学習、家族計画、消費生活 等
情 報：ブログ・プロフ等のリスク、被害事例、有害情報 等

- 生徒の変容を促す工夫
 - ・生徒のヘルプサインを見逃さないように、教員が積極的に生徒に声をかけ、教員間の情報交換を行った。
 - ・スクールカウンセラーによる個別の面談を実施した。
- 生徒の変容
 - ・大きなストレスを抱える場面においても、周囲の生徒の力を借りながら乗り越えることができるようになってきた。
- 生徒の感想
 - ・友人や先生に相談することで心が軽くなった。
 - ・ストレスに種類があり、心や体に影響することが分かった。